

## 1 Wa-2 青年期の女子における父親との関係

○表 真美\* 加藤 由希子\*\*

(\*,\*\*京女大)

**目的** これまで日本における親子関係の研究は、母子関係が中心であった。最近、ようやく父子関係にも目が向けられるようになったが、育児期における研究が主であり、成長後の子どもと父親との関係に注目した例は少ない。青年期の父親と娘との関係、およびそれに及ぼす母親の影響を明らかにすることが、本報の目的である。

**方法** 女子大学生363名を対象に、自己作成質問紙による調査を行った。調査期間は1995年7月4日から11日、調査内容は①父親像、②対象者と父親の関係、③父親と母親の関係、④母親の父親への態度・評価の4項目である。359の有効票を得、分析対象とした。

**結果** ①娘から見た父親は、厳格型よりも自由型の方が多い。また、家庭よりも仕事を優先する者は約半数で、家庭優先を若干上回るが、7割の娘が、理想の父親像として、家庭を優先させることを望んでいる。②父親を「好き」と答えた者は8割に達し、娘から見た父親との関係は「わりとよい」「よい」合わせて約9割であった。また、父親との会話は、57%が「話すほう」と回答し、全体的に父親との関係がよいと感じている者が多いことが明らかとなった。③両親の「仲のよさ」の認知、および母親の父親評価が高い者は、父親との関係がよくなり、青年期女子における父親との関係には夫婦関係、および父親の母親評価が大きな影響を与えていることが明らかになった。